

スポーツを核とした街づくりを担う 「スマート・ベニュー」

～地域の交流空間としての多機能複合型施設～

2013年9月

スマート・ベニュー研究会

株式会社日本政策投資銀行 地域企画部

コンパクトシティとスポーツを核とした街づくり

街づくりにおける悩み・課題

- 中心市街地の空洞化
- 大型商業施設／工場の撤退
- 交通利便性の低下
- 公共サービスの低下
- 防災減災対策の必要性
- 地方財政の疲弊

効果と影響①

中心市街地の活性化
地方財政の負担軽減

効果と影響②

利用率増による収益改善効果

スポーツ施設における悩み・課題

- 施設の老朽化
- 郊外立地による低い利用率
- 低い収益性

コンパクトシティ形成



中核となる交流空間

スマート・ベニュー概念



多機能複合型スポーツ施設

改築/改装の際に立地/概要検討

「する」「みる」スポーツの有用性

- 世代／階層を超えた交流
- 地域アイデンティティの醸成
- 周辺地域への経済効果
- 健康的な社会生活(予防医療)

効果と影響③

健康な地域コミュニティの構築

街づくりの中核としての「スマート・ベニュー」

今後の街づくりには、単機能型のスポーツ施設ではなく、公共施設や商業施設との複合型など街づくりの中核拠点となり得るサステナブルなスポーツ施設が国内でも必要ではないか。

「周辺のエリアマネジメントを含む、複合的な機能を組み合わせたサステナブルな交流施設」を「スマート・ベニュー」と位置付ける。

※ なかでもスタジアム・アリーナ等に特に着目して調査研究を進める

- ・単機能型
- ・行政主導(公設公営等)
- ・郊外立地
- ・低収益性

スマート・ベニュー化

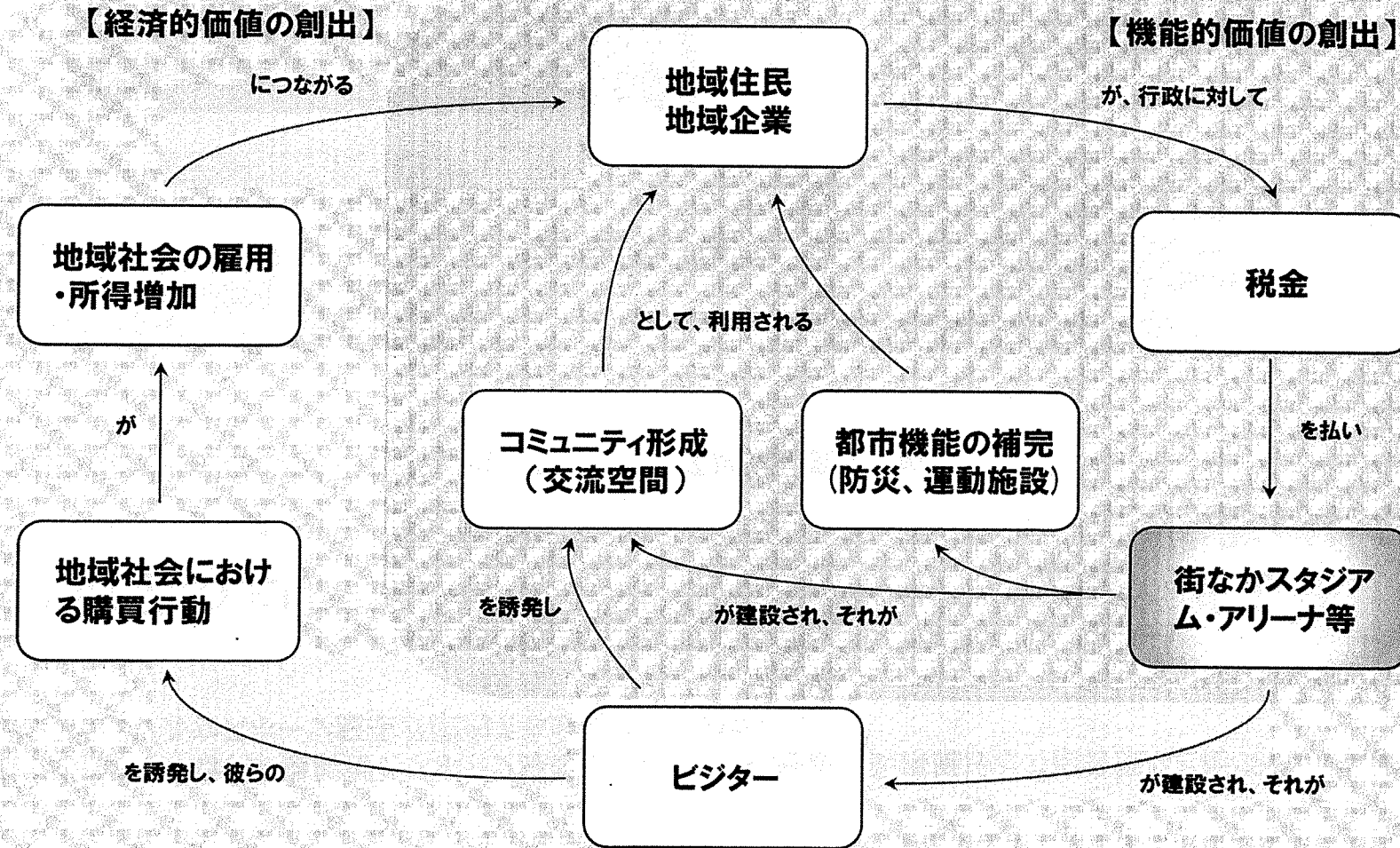
- ・多機能型(商業施設複合等)
- ・民間活力導入
- ・街なか立地
- ・収益性改善

+周辺エリアの
マネジメント



スタジアム・アリーナが地域にもたらす価値

スタジアム・アリーナ等は周辺地域に経済的価値をもたらすと同時に、都市機能を補完するような機能的価値も創出。これらが地域財政を圧迫することなく機能することこそが、「スマート・ベニュー」につながる。



「スマート・ベニュー研究会」の目的・構成員

これらの「スマート・ベニュー」に関する調査・研究を実施するため、「スマート・ベニュー」研究会を設立。

1. 目的・趣旨

- (1) スタジアム・アリーナ等に関する業界構造、市場規模の情報整理
- (2) 目指すべきスマート・ベニューの建設、運営モデルの提示
- (3) 地域活性化政策(中心市街地活性化、震災復興など)と連携したモデルケースの立ち上げ

2. 構成委員 (敬称略、所属は2013年6月時点)

氏名	所属
間野 義之	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
大河 正明	公益社団法人日本プロサッカーリーグ理事管理統括本部長
山谷 拓志	公益財団法人日本バスケットボールリーグ協会新リーグ運営本部副本部長兼COO
中村 考昭	ゼビオ(株)常務執行役員
磯貝 元希	ゼビオ(株)経営企画室兼事業開発室
澤井 和彦	桜美林大学健康福祉学群専任准教授
庄子 博人	大阪成蹊大学マネジメント学部講師
舟橋 弘晃	日本学術振興会特別研究員、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程
杉元 宣文	(株)日本政策投資銀行地域企画部担当部長

3. スケジュール

2012年12月 発足(計8回開催)
2013年8月 報告書公表(スマート・ベニュー研究会および日本政策投資銀行の共同)

スタジアム・アリーナ等の整備/運営に関する基礎調査概要

「スマート・ベニュー」の基礎調査として、国内の既存スタジアム・アリーナ等を対象に施設整備・運営に関する調査を実施。

①既存スタジアム・アリーナ等の改築・新設需要に関する調査

- 既存スタジアム・アリーナなどの改築に関する調査

対象： 国内の主要リーグ等に直近1シーズンで利用されたスタジアム・アリーナ等

手法： Web検索及び文献調査による公開情報の整理、把握

- スタジアム・アリーナ等の新設に関する調査

対象： 国内の主要スポーツリーグ関係者および研究会委員

手法： ヒアリング調査による新設動向の整理、把握

⇒上記を基に、「スマート・ベニュー」の潜在的市場規模を推計

②既存スタジアム・アリーナ等の収支・運営手法に関する調査

- 既存スタジアム・アリーナなどの収支・運営に関する調査

対象： 国内の主要リーグ等に直近1シーズンで利用されたスタジアム・アリーナ等(①同様)

手法： アンケート調査およびヒアリング調査による情報の整理、把握

⇒上記を基に、既存施設の収益構造を考察